

子宮頸がん検診受診啓発を目指したピアエデュケーションによる介入研究—女子大学生への介入の有無による比較及び受診者の背景因子—

山口典子、志田佑佳子、佐藤郁美、下山博子、
塚本康子
新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科

【背景・目的】 本邦における子宮頸がん検診受診率は、先進国の中で最も低いことが指摘されている¹⁾。厚生労働省は、子宮頸がん検診の無料クーポンの配布を開始しているが、その8割以上が未使用であり、特に若年女性への啓発が喫緊の課題であるとされる²⁾。

2011年、研究代表者らは、看護学生を対象とした子宮頸がん予防をテーマとしたピアエデュケーション（以下、PE：peer education）を実施（2010年度新潟医療福祉大学学内奨励金発展研究採択研究）、その結果、PEの介入によって、子宮頸がん予防の意識が向上したことを明らかにしている³⁾。本研究は、看護学生にとどまらず、対象を女子大学生に拡大し、子宮頸がん検診受診啓発を目的としたPEによる介入研究を行った結果を報告する。

本研究の目的は、女子大学生の希望者を対象に子宮頸がん検診受診啓発を目的としたPEを実施、2年後に行ったアンケート調査から、PE介入群と非PE介入群における子宮頸がんやその原因となる性感染症に対する関心、受診率、受診者の背景因子を明らかにすることとした。

【方法】 A大学在学中の女子大学生の希望者を対象とし、子宮頸がん検診受診啓発を目的としたPEを実施。PEは、研修を重ねた研究代表者らのもとで学習会を重ねたPEサークルが実施した。PE実施2年後に、A大学女子大学生を対象とし、学科、年齢、家族背景、相談者の有無とその相手について、また子宮頸がんやその原因となる性感染症に対する関心については、「とてもある」から「全くない」までの5段階リッカートで質問し、また子宮頸がん検診受診の有無とその時期について質問した。分析は、統計ソフトSPSS statistics ver. 22.0を使用した。

なお、本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を受け、2012年新潟医療福祉大学学内奨励金発展研究の採択を受けて実施した。

【結果】 PE受講者は18名。非PE介入群は1475名。有効回答率は、PE群は100%（17名）、非PE介入群は61.1%（740名）だった。

子宮頸がんに対する関心度について、PE介入群と非PE介入群の2群の差の検定を行った結果、PE群において有意に高く、子宮頸がんに対する関心が高くなっていることが明らかとなった（ $<.05$ ）。また、子宮頸がんの原因とな

る性感染症に対する関心度について2群の差の検定を行った結果、PE群において有意に高く、性感染症に対しても関心が高くなっていることが明らかとなった（ $<.05$ ）。しかし、子宮頸がん検診受診率の有無について2群の差の検定を行った結果、有意差は認められなかった。そこで、PE介入群と非PE介入群の全対象者において、子宮頸がん検診受診群と未受診群に分け、その背景因子について検討した。その結果、子宮頸がん検診受診群では、日ごろの話し相手として母親を挙げ、未受診群との間に有意差が認められた。よって、子宮頸がん検診受診には、母親がキーパーソンであることが明らかになった（ $<.05$ ）。

【考察】 PE群の子宮頸がんや性感染症に対する関心の高さからPEの効果が示され、また経年経過でもその効果が得られることが本研究で明らかになった。しかし、受診率の向上にまではPEの効果として見出すことはできなかったことから、今後PEの内容の再検討の必要性が考えられた。その一方で、研究代表者らが若年女性の子宮頸がんに対する関心には、母親がキーパーソンであることをすでに発表している⁴⁾が、子宮頸がん受診率にも母親が関与していることはこれまで一切明らかにはなっておらず、新たな知見であるといえる。今後は、母親を巻き込んだ受診率の向上を目指した取り組みを進めていく。

【結論】 PEは、子宮頸がんや性感染症に対する関心の高さと経年経過においてもその効果が維持できることが明らかとなった。PEは、受診率の向上に明らかには関与していなかったものの、子宮頸がん受診率には母親が大きく寄与していることが新たな知見として得られ、母親を巻き込んだ取り組みの重要性が見出された。

【文献】

- 1) OECD Health Working Papers : Health Care Quality Indicators Projects 2006 Data Collection Update Report, <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/cancernavi/report/201004/100467.html>, 2019年8月29日.
- 2) 厚生労働省:がん検診の在り方に関する検討会, https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other/kenkou_128563.html, 2019年8月29日.
- 3) Yamaguchi N, Tsukamoto Y, Shimoyama H, Nakayama K, Misawa S : Effect of peer education interventions aimed at changing awareness of cervical cancer in nursing students , Niigata Journal of Health and Welfare, 11(3) : 32-42 , 2012.
- 4) 山口典子, 塚本康子, 中山和美, 下山博子 : 子宮頸がん予防に向けたピアエデュケーションの効果的な支援方法の検討～参加者の属性と日本語版健康増進ライフスタイルプロフィールとの関連から～, 日本助産学会誌, 26(3), 231, 2013.